



### アトリー氏参加

【東京】来日中の元英領首相アトリー氏（右）と夫人（左）は、二十七日午後三時、都立大の野田会館で、朝日新聞社主催の「世界平和の道」講演会に出席した。アトリー氏は同六時半から、都立大の講堂で「世界平和の道」を演説した。この行進には、アトリー氏世界連邦事務局長（キリス国会議員）も加わった。

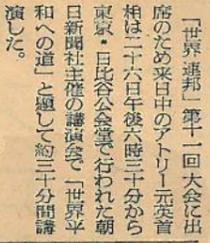
【写真】アトリー氏事務局長（中央）を先頭に、世界連邦平和行進隊（日比谷公会堂前）

【東京】来日中の元英領首相アトリー氏（右）と夫人（左）は、二十七日午後三時、都立大の野田会館で、朝日新聞社主催の「世界平和の道」講演会に出席した。アトリー氏は同六時半から、都立大の講堂で「世界平和の道」を演説した。この行進には、アトリー氏世界連邦事務局長（キリス国会議員）も加わった。

【写真】アトリー氏事務局長（中央）を先頭に、世界連邦平和行進隊（日比谷公会堂前）

## 権力もつ国連へ改革

### 「世界平和の道」アトリー氏が講演



アトリー氏

「世界連邦」第十回大会は出陣のため来日中のアトリー元首相は二十六日午後六時三十分から東京・日比谷公会堂で行われた朝日新聞社主催の講演会で「世界平和の道」と題して約三十分演説した。

アトリー氏はこの講演で「人類が今日の危機的状態を脱して生存する唯一の道は世界連邦樹立にある」と前置きして、世界平和への道は軍備や核実験禁止で武器を制限するより「個人の意思の問題」であることと強調するとともに、具体的方法としては「現在の国連を改革して」と権力をもたせ、国連は国際裁判所と国際警察軍を持つべきである」と訴えた。このあと世界連邦世界協会会長湯川秀雄博士が「戦争なき一つの世界」と題する講演を行った。

私は一人の老人として長年つちかした意見を述べたためにもやってくる。人類が今日の危機的状態を脱して生存する唯一の方法は世界連邦を樹立することである。

一九四五年われわれがサンフランシスコに集って国連をつくったときは世界平和の望みがあるうちにみえた。しかし、今日、平和は実現せず、世界各国は何百万の

なぜなら、それは、警察はどんな人でも守る力がある。武器を持つ必要はない。国家的にも同じことである。世界の平和は世界的な機構を築かれるべきだ。

われわれは、何百万の巨費を投じて武器を製造し、しかもそれを使用しないという願っている。死ぬための武器で、生きるための物を作り出す。それは、貧しい人々を救うことができる。

世界的機構があれば、アジア、アフリカ、ヨーロッパの狙っている「世界」を、やむを得ず、（か）を導く人々を救うことができる。

それは、善者のユメ、だ。人々があきらめられない。しかし、それは四十年前政治になさけり首相（は）二十年間、政界の幹部であった経験からいうのである。この世の中には資本家、保守党、労働者、共産主義者、社会主義者、宗教家、競争は悪劣の分野でもよくあり、力に訴えてはならない。

わたしは社会主義者で、資本家や保守党の人たちといっしょに仕事をし、時に意見の相違を来たしたことがある。しかし意見がたがうのはいいことだ。みんなが同じように考えるのはナチスか共産主義者だ。お互いに意見をたかかわらなければならない。数年間われわれが考えていたのは、世界をどうにかしよう、われわれが理想をどう実現しよう、われわれが理想をどう実現しよう、われわれの考え方を、競争ではなく、平和の道へ変えよう。世界連邦を基礎としてわれわれは戦争のない生活を準備するべきである。

### アトリー氏参加

世界連邦大会



外国代表もまじって世界連邦大会のアトリー氏行列（日比谷公会堂前）

「世界連邦運動に参加して、戦争のない一つの世界を作る」と呼びかけながら、手にアトリー氏像を持った青年、学生、世界連邦大会の外国代表約五百人が二十六日夜八時過ぎから、日比谷公会堂前新橋十橋まで行進した。

同日午後六時から千代田区豊洲の尾崎記念会館で開かれた「世界連邦青年の夕」には、世界連邦青年学生部副委員長ラム・シン氏（インド）ら外国代表十余人と日本側から約千人が参加して、外国代表に記念のペンダントを贈った。

世界連邦世界協会事務局長のマラーニ、英労働党議員、世界連邦日本青年協議会会長の川崎秀二氏らを先頭に行進に移るとしたとき、公会堂のロビーにアトリー氏像を持ったアトリー夫妻が現れた。

アトリー夫妻は元首相と世界連邦バンクの音が起る。元首相は、このまじりにアトリー氏行列のウズにまじり込まれた形。そのまま車で新橋十橋まで行進、沿道の人々の歓呼にこたえていた。

り、日本民謡のアトラクションなどを楽しんだ。この集りの出席者たちが午後八時ごろ日比谷公会堂の前へアトリー氏像を持って集り、アトリー、湯川氏の講演を終って会場を出てくる乗客にアトリー氏行列への参加を呼びかけ、参加者はたちまち約千五百人にふれあがった。